

第3回エコーールド・BIO 食糧自給編二時間目 過去の自給との比較

一時間目では、世界の逼迫していく食糧事情の中で、日本はどのような立場にあるかということを確認しました。(資料が必要な方はBIOまでご連絡ください)

今回は、現在40%(カロリーベース)の食糧自給率のわが国は(先進国中最下位)昔からそのような状況だったのかを検証していきます。

戦後がひと段落した一九六〇年と現在を比較します。

項目	1960年	2007年	増減
人口	9341万人	12700万人	36%増
農業従事者	1175万人	197万人	83%減
農地面積	607万ha	465万ha	23%減
延べ作付面積	817万ha	438万ha	46%減
自給率(カロリーベース)	79%	40%	49%減
国内総供給量	1844億kcal	1270億kcal	31%減
米消費量(一人当たり)	118kg	61kg	48%減
摂取カロリー中米が占める割合	1150kcal	600kcal	

以上から読み取れることは次の点です

- ・農業従事者の減少は顕著だが、同時に高齢化も加速度的に進んでいる現在数年でさらに激減する
- ・農地面積の減少は東京都の面積の6.8倍
- ・延べ作付面積の減少は、日本国面積の1割。2毛作の減少(小麦、菜種、大豆)。
農地面積より作付面積が少ないのは減反政策100万ha以上が対象
- ・農業従事者の減少、作付面積の減少にしては総供給量は減少幅が小さい
農機具の進歩、農薬化学肥料の大量投入、耕地整備などが主要因か？
- ・1960年の生産(食生活)に戻れば食糧自給率は58%まで回復する。
- ・米主体の食生活からおかず(肉食)主体の食生活への変化を見直すべき
牛肉1キロ穀物11キロ、同じく豚には穀物7キロ、トリは穀物4キロ
畜産飼料の自給は現在、絶望的15%
米は減反政策を見直せば500万tの増産の余地がある(現在853万t)